

【報告】

博物館学の学術文献情報の調査・収集に関する基礎的研究 —データベースの活用を中心として—

Basic Study of Method for Collecting Information on Museology
—Especially by Using Information Retrieval Databases—

都 築 泉*
Izumi TSUZUKI

目 次

序 論

1. 研究上汎用されているオンラインシステム
2. 博物館学情報を収録するデータベース
3. データベースの比較と考察
4. インターネット情報源

結 論

Abstract Nowadays, much information is available for us, especially through internet. Then, it is very important for researchers to select useful information, especially, for academic study.

The available commercial databases have become familiar to us through internet. They are comprehensive, reliable and speedy, so powerful tool for researchers because of systematic collection of information. The databases which are supplied on online information system are usually charged, but search results can be obtained quickly. In addition, the search capabilities of the online information systems provide some sophisticated search results, e.g., statistically analyzed results on online. These capabilities contribute for the researchers to save time and give useful information.

Among the databases which contains museological information, six of them are studied here ; ARTbibliographies Modern, Bibliography of the History of Art (BHA), Art Literature. International (RILA), Art Abstracts, Wilson Humanities Full Text and Arts & Humanities Search. These are studied and compared based on Dialog online information system. The databases are all bibliographic databases. The fact that the indexing fields are different in each database should be paid attention. In addition, some portion of the last two databases are fulltext records, then search operator should be selected carefully to avoid useless records. Furthermore, upon selection of the databases, the important points are the periods, time-lag, the contents of each records, the indexing policy of the database producer.

On the other hands, the information which is supplied through internet is not systematic, so usually they are not so useful for a research study, but they are very helpful for current information.

* (株)ジー・サーチ

平成14年2月1日受理

序 論

昨今の情報化社会においては、情報量はますます増大しており、また、インターネットの普及により情報の入手は飛躍的に便利になった。一方で、大量の情報の中から目的に合ったものを選択して入手するための工夫が必要となっている。すなわち、氾濫している多くの情報の中から、目的に合致したものを効率良く選択し活用することの重要性が飛躍的に高まってきたと言える。

学術分野の情報調査・収集においては、データベースの利用、特に商用データベースの活用は重要である。商用データベースサービスは、日本では1980年代から専用線を介しての利用が定着し、情報調査に大きな役割を果たしてきた。データベースプロデューサー（データベースの作成機関）による専門的かつ体系的な情報収集、情報の分析に基づく索引体系、またベンダー（データベースディストリビューター；データベースをオンラインシステムなどにより提供する機関）による高度・詳細・高速な検索機能に支えられて、一定の評価を得てきた。専門性に基づいたコンテンツの網羅性、信頼性、安定性、また利用に際しての利便性、スピード等において優れており、利用価値は高い。

商用データベースを利用するには、事前の利用契約を必要とし、パスワードの取得が必要であるが、機器的な利用環境については敷居が低くなってきた。これは、1980年代から用いられてきた通信方法、すなわち商用データベースをオンラインで利用するための通信ソフトを準備した上でモデムと電話回線を利用する方式のみでなく、通常のインターネットが利用可能な環境にあれば、特別な準備をせずとも従来とほぼ同内容の情報調査を可能とするサービス形態が急激に広がったからである。また、利用料金の面でも、エンドユーザー・サーチ（研究者などの情報の利用者—通常は情報の専門家ではないので、データベースの利用方法そのものには不慣れである—が自らデータベースを利用して調査をする）を意識して、時間課金をなくして情報量課金を中心とした料金形態も登場し、多彩な利用形態での情報調査が可能となっている。

商用データベースを搭載・提供するオンライン情報検索システムの利用に関する概念図を〈図1〉、

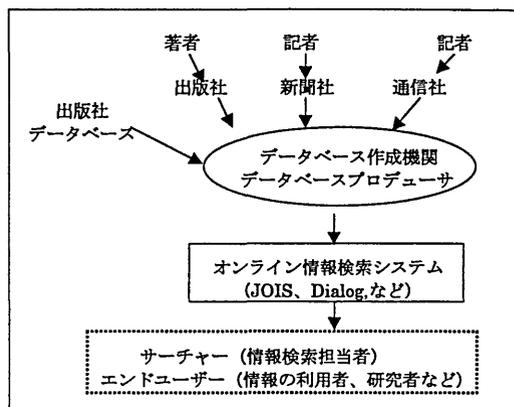


図1. 情報の流れ

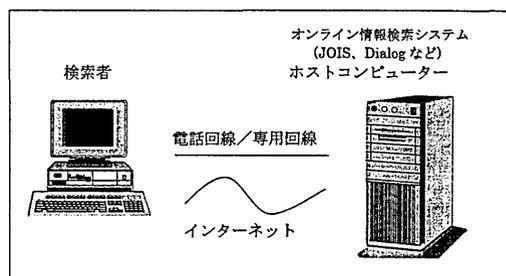


図2. オンライン情報検索システムへの接続

〈図2〉に示す。

1. 研究上汎用されているオンラインシステム

日本において、有料の商用データベースで利用される情報の主な内容は、特許情報、医薬・科学などの技術情報、また企業・市場・新聞情報などのビジネス情報などである。たとえば、パトリス (PATOLIS; 特許分野)、ダイアログ (Dialog; 特許・科学技術・医薬・ビジネス・人文社会など多彩)、エス・ティー・エヌ (STN; 特許・化学・科学技術など)、日経テレコン21 (ビジネス)、帝国データバンク (企業・役員・信用情報)、東京商工リサーチ (企業・経営者・信用情報)、ジョイス (JOIS; 科学技術・医薬文献) などが多用され、重要なものとなっている (文献1)。

利用の多くは、それぞれの分野に応じた専門のサーチャー (情報調査の担当者) による企業内での利用や研究機関、大学などによるものであり、そのほとんどは、科学技術的、もしくはビジネス情動的な利用となっていて、人文社会的な分野での利用はさ

ほど多くない。理由の一つは、特許・科学技術・ビジネス分野では、最新情報を入手する必要性・その情報の新鮮さへの要求（スピード）が高いので、迅速な情報提供が可能なオンラインシステムの性格に合致しているためと推察される。

社会科学・人文科学分野では、自然科学分野と比較すると、データベースの種類・利用とも少ないのが現状である。殊に人文科学は、社会科学よりもさらに少ない。「平成12年度データベース台帳総覧」（文献2）によれば、国内で利用できる3,817のデータベースの内、「社会科学・人文科学」に分類されるデータベースは約3.6%の139のみである。これは「平成9年度データベース台帳総覧」に示される2.9%（3,882データベースのうち112）に比べると増加の傾向にあるといえるが、絶対数としてはやはり少ない。また、そのほとんどは海外で構築されたデータベースである。一方で、特に人文科学分野では、哲学書・文芸書などの著作のフルテキストがデジタル化され、CD-ROMで提供されるものが多数である。

インターネット環境さえあれば、昨今ではさほど大きな準備を必要とせず利用できるようになった商用データベースは、人文社会分野においても体系的な情報収集という意味で大きな利用価値を有する。また商用システムの洗練された検索機能の利用により、論文執筆の時間短縮という面からも、研究上大いに力を発揮する。

博物館に関する情報には、自然科学から人文社会

まで幅広い範囲が含まれるが、ここでは、世界のレベルでの博物館学の情報収集に役立つ人文社会分野の商用データベースを取り上げ、代表的なデータベースの特徴を比較検討する。

2. 博物館学情報を収録するデータベース

世界の博物館学分野の情報を提供する代表的データベースを取り上げ、特徴を述べる。これらのデータベースを提供するオンラインシステムの連絡先は表1に示す。検索機能や収録情報は、それぞれのオンラインシステムにより多少異なるが、日本で広く利用されているダイアログ（Dialog）を基準に説明する。Dialogオンライン情報検索システムは、米国に置かれたホストコンピューターにより500余りのデータベースを搭載している。データベースのほとんどは英語による。

2.1 ARTbibliographies Modern

①利用可能なオンラインシステム

オー・シー・エル・シー（OCLC）、オビッド（Ovid）、ダイアログ（Dialog；ファイル56）

②作成機関 CSA社（英国）

③収録データ 収録期間：1974年以降
収録件数：約253,000件
（2001年9月現在）

④主題分野と情報源

美術、芸術、デザインを扱う最新の文献、記事、単行本、学位論文と展覧会のカタログの包括的な書誌目録を提供するものであり、半年刊の同名の出版

表1. 商用オンラインシステムの国内連絡先

システム名	提供機関名	連絡先
OCLC	紀伊国屋書店	〒150-8513 東京都渋谷区東3-13-11 TEL(03)5469-5923 FAX(03)5469-5951
Ovid	ユサコ(株)	〒106-0044 東京都港区東麻布2丁目17番12号 TEL(03)3505-3256 FAX(03)3505-6282
Questel-Orbit	日本電子計算(株)	〒103-8217 東京都中央区日本橋茅場町1-8-1 TEL(03)3668-6170 FAX(03)3668-6062
Dialog	(株)ジー・サーチ	〒108-0022 東京都港区海岸3-9-15 LOOP-Xビル TEL(03)5442-4982 FAX(03)5442-4391

物に相当し、抄録を含む。

19世紀と20世紀の芸術とデザインに関する広い範囲の主題を対象とし、建築関係、展覧会、絵画、美術、民族美術、写真、陶磁器、家具、ポスター、収集と収集家、ガラス、版画、衣装、グラフィック・デザイン、彫刻、デザイン、肖像研究、織物、素描、室内装飾、都市と土地計画、教育、美術館と画廊、水彩画など多岐にわたり、18、19両世紀の著名な芸術家や芸術運動も含む。

単行本、展覧会のカタログ、学位論文と約500種の国際的な雑誌が査読対象となっている。

⑤記事（レコード）の収録情報

通常の書誌事項（著者名、雑誌名、発行年度、ページ等）に加え、下記の情報が収録されている。

- ・主題に関係する項目：抄録、索引（ディスクリプタ）
- ・特徴的な項目：出版国（CP＝）
出版社（PU＝）
画廊索引（GI＝）
文献の種類（DT＝）

⑥他の電子媒体

CDおよび磁気テープでも提供されている。

⑦特徴/利用上の注意点

文献の種類で検索できることから、雑誌記事、単行本、カタログ、学位論文、エッセイ、展示会のレビューと区別して検索可能である。また、画廊索引の提供により、特定の画廊・博物館のカタログ情報などを検索できる（ただしカタログの取り寄せは、オンライン検索の流れの中では原則的にできないため、個別に対応する必要がある）。

一方、データ更新が年2回と少なく、タイムラグ（原資料が発行されてからデータベースで利用可能になるまでの期間）が大きい点に注意する必要がある。たとえば、2001年9月時点ではデータの更新が大きく遅れ、2000年発行の文献の収録数は少ない。従って最新情報の入手という点では充分とは言えず、最新情報の収集が重要な場合にはタイムラグの短い他のデータベースを考慮すべきである（2.4、2.5、2.6の項を参照）。また、原論文の使用言語についての区別は、英語と英語以外の2種類のみであり、英語以外の個別の言語を指定した検索はできない。しかし検索の結果得られた記事（レコード）に表示

されるので、確認は可能である。

2.2 Bibliography of the History of Art (BHA)

①利用可能なオンラインシステム

クェステル・オービット (Questel・Orbit)、ダイアログ (Dialog; ファイル190)

②作成機関

AHIP/J.Paul Getty Trust and INIST/CNRS 社 (米国)

③収録データ 収録期間：1990年以降
収録件数：約210,000件
(2001年9月現在)、

④主題分野と情報源

(International Repertory of the Literature of Art, ファイル191) とRAA (Repertoire d'Art et d'Archeologie) の後継であり、同名の冊子体資料に対応し、美術史に関する刊行物の抄録および索引を提供するものである。古代後期（後4世紀）から現在までのヨーロッパ美術、およびヨーロッパ人による発見から現在までのアメリカ美術に関する最新の文献を対象とし、1990年以降に発行された文献を収録している（1975—1989年発行の文献についてはRILA (Dialog; ファイル191) を参照のこと）。

美術、装飾・応用美術、考古学、建築、装飾美術、民俗美術、工業美術、ニューメディア、絵画、写真、印刷物、図面、彫刻、演劇、フェスティバルなどを対象とし、地域的には、ヨーロッパ、アメリカ大陸、ヨーロッパの伝統を反映したアジア・アフリカ・オーストラリアの美術などが含まれる。

単行本、定期刊行物、批評、会議資料、記念論文集、エッセイ、展覧会カタログ、学位論文、電子出版物など広範な資料を対象としている。

⑤記事（レコード）の収録情報

通常の書誌事項（著者名、雑誌名、ISSN番号、ISBN番号、発行年度、使用言語、要約言語、ページなど）に加え、下記の情報が収録されている。

- ・主題に関係する項目：タイトル、抄録と索引（ディスクリプタ、アイデンティファイア）、分類（セクション名）
- ・特徴的な項目：対象国コード（CC＝）
展覧会主催者と住所（EX＝）
展覧会開催年（EY＝）
文献の種類（DT＝）

⑥他の電子媒体

CD-ROMでも提供されている。

⑦特徴/利用上の注意点

文献の種類を指定した調査により、定期刊行物、分析的な内容のもの、単行本などを区別できる。また、展覧会に関する情報が収録されていることから、今後開催予定の展覧会の情報入手に利用可能である。

一方、それぞれの記事(レコード)は書誌事項・抄録・索引を含むが、タイトルおよび抄録は英語またはフランス語で記載されており、網羅的な検索には英語とフランス語の両方が必要な点に留意すべきである。また、データ更新頻度は年に4回であるが、2001年9月時点での2000年度発行の文献の収録数は、最終的な収録予想総数の約13%程度のみであり、文献発行からデータベースに収録されるまでにある程度の時間を要していることに注意する必要がある。

2.3 Art Literature. International (RILA)

①利用可能なオンラインシステム

ダイアログ(Dialog;ファイル191)

②作成機関 College Art Association of America (米国大学芸術協会)とArt Libraries Society of North America (北米美術図書館)が後援しており、J.Paul Gatty信託財産のGetty Art History Information Program (ゲティ美術史情報プログラム)の書誌サービスであるRILA(米国)が作成

③収録データ 収録期間:1973年-1989年

収録件数:約128,000件

(2001年9月現在)

④主題範囲と情報源

美術史に関する最新出版物の抄録・索引を提供し、印刷体出版物のRILAに対応する。半分以上のレコードには抄録が収録されている。

古代後期(四世紀)から現在に至る西洋美術に関する広い範囲の文献を収録する。具体的には、彫刻、建築、絵画、素描、版画、装飾芸術、写本と彩飾、図書とさし絵、写真、工業デザイン、配景図法、造園術と庭園、都市計画、概念芸術と新しい媒体、図像学、収集と寵偶、展覧会、芸術理論の批評、芸術家、運動と学派、技術、保存と復元、美術館と画廊に関するものなどである。

単行本、小論集、記念論文、会議録、美術館の出

版物、展覧会目録、学位論文や雑誌記事を含む広範な種類の資料を収録対象としている。書評や展覧会の批評、死亡記事、インタビュー、出版された講演も収録、個々の小論は個別の抄録として含まれている。

⑤記事(レコード)の収録情報

情報源レコードと論評レコードに分かれている。通常書誌情報(著者名、雑誌名、ISSN番号、ISBN番号、発行年度、ページ、使用言語、要約の言語など)に加えて、下記の情報を収録する。

・主題に関する項目:タイトル、抄録、索引アイデンティファイア、ディスクリプタ)、分類(セクション名とコード)

・特徴的な項目

学位授与機関(CS=)

学位授与年(DY=)

展覧会の講演者と所在地(EX=)

展覧会開催年(EY=)

文献の種類(DT=)

出版社名と所在地(PU=)

⑥他の電子媒体

CD-ROMでも提供されている。

⑦特徴/利用上の注意点

文献の種類を指定できることから、たとえば論評レコードを選択・区別して検索できる。また、展覧会に関する情報が収録されていることから、今後開催予定の展覧会の情報入手に利用可能である。学位授与に関する情報が収録されていることから、学位論文の調査に有用である。

一方、1989年以降はデータの追加・更新がなされておらず、それ以降の文献の調査にはBibliography of the History of Art(BHA)を利用すべきである。

2.4 Art Abstracts

①利用可能なオンラインシステム

オー・シー・エル・シー(OCLC)、オビッド(Ovid)、ダイアログ(Dialog;ファイル435)

②作成機関 H.W.Wilson社(米国)

③収録データ 収録期間:

索引 1984年以降

抄録 1994年以降

収録件数:約511,000件

(2001年9月現在)

④主題分野と情報源

全世界で発行されている300種類以上もの定期刊行物等に掲載された記事、論文などを収録する。英語やその他の言語で印刷されている定期刊行物、年鑑および美術館の紀要等の記事、論文のほか、引用対象となった定期刊行物に所載された美術作品の複製も索引に掲げられている。例えば、広告に掲載された絵画について、画家の氏名、作品名、書誌事項を表示・確認できる。

広告アート、アンティーク、考古学、建築学、建築史、美術および美術史、都市計画、クラフト、装飾アート、フォーク・アート、グラフィック・アート、工業デザイン、インテリア・デザイン、風景計画、映画、美術館学、写真、テキスタイル、その他の関連事項などが収録対象の主題であり、美術、建築の広範囲な分野での各種のトピックスに関する記事、論文の検索と、美術作品の複製、展示会リストを調査できる。

⑤記事（レコード）の収録情報

通常の書誌事項（著者名、雑誌名、ISSN番号、ISBN番号、使用言語、発行年度、ページなど）以外に、下記の項目を収録する。

- ・主題に関係する項目：タイトル、抄録、索引（ディスクリプタ）
- ・特徴的な項目：地名（/GN）
人名（/NM）の索引

⑥他の電子媒体

CD-ROM、磁気テープでも提供されている。

⑦特徴／利用上の注意点

抄録の作成が始まった1994年以降の約70%のレコードに関して抄録が付与されている。

また、毎月、データ追加・更新が行われていて、情報入手に迅速性が期待できる。2001年9月時点で、2001年の発行記事からの収録予想件数の約2/3がすでに収録されている。情報の迅速性という点では、既述のデータベースに比べ、かなり早いと言える。

さらに、地名、人名の索引があることから、特定の地域や人物について焦点を当てた調査が可能である。Dialogでは検索範囲を美術作品の複製品を説明したレコードに限定する機能も備えている。

一方、英語以外のタイトルのレコードも相当数含まれており、それらはほとんど英語で検索できない

ことに注意する必要がある。なお、抄録を含むレコードの場合は、原論文の使用言語が英語以外であっても、抄録は原則として英語で記載され、英語で検索できる。

2.5 Wilson Humanities Full Text

①利用可能なオンラインシステム

ダイアログ（Dialog；ファイル436）

②作成機関 H.W.Wilson 社（米国）

③収録データ 収録期間：

索引 1984年2月以降

抄録 1994年3月以降

全文 1995年1月以降

収録件数：約520,000件

（2001年9月）

④主題分野と情報源

人文科学の広い分野にわたる英文雑誌約400点の記事を収録している。収録対象誌には学術誌のほか、重要な専門誌も含まれ、特集記事、インタビュー、追悼記事、書誌、総説、小説・劇・詩の創作なども対象となっている。

収録対象の主題分野は、考古学、美術、古典学、コミュニケーション、舞踊、映画、民俗、歴史、ジャーナリズム、言語学、文学、音楽、舞台芸術、哲学、写真、宗教・神学などである。

⑤記事（レコード）の収録情報

通常の書誌事項（著者名、雑誌名、使用言語、発行年度、ページなど）に加えて、下記の項目が収録される。

- ・主題に関係する項目：タイトル、抄録、索引（ディスクリプタ）
- ・その他の特徴的な項目：地名（/GN）
人名（/NM）
発行国（CN=）

⑥他の電子媒体

CDおよび磁気テープでも提供されている。

⑦特徴／利用上の注意点

当初は索引レコードのみであったが、1994年の3月以降は抄録を、1995年以降は97以上の雑誌掲載の論文について、記事の全文（ただし図面以外）の収録を開始した。これは、1995年以降のレコードの約2/3にあたり、抄録もしくは全文を収録するレコードは、約80%になる。したがって、用語（主題テ

マ)を用いた検索によりかなり網羅的な調査が期待できる。

また、データ追加・更新も毎月なされており、2001年9月現在で、2001年出版の記事からの収録予想数の約半数のレコードが既に収録されており、情報の迅速性も高い。

地名、人名による検索が可能なことから、特定地域や特定の人物に関する記事の絞って調査可能である。また、文字情報の全文が収録されていることから、通常の抄録レベルでは検索できない記事も含めて幅広い検索が可能となる。

一方、全文から検索されることで調査が広くなりすぎて、多数の不要レコードも検索されてしまう場合もあるため、オンライン情報システムの柔軟な検索機能(たとえば、概念の組み合わせに用いる近接演算子)を利用する必要がある(文献3)。

2.6 Arts & Humanities Search

①利用可能なオンラインシステム

アイ・エス・アイ (ISI)、オー・シー・エル・シー (OCLC)、ダイアログ (Dialog; ファイル439)、データ・スター (DataStar)

②作成機関 ISI (Institute for Scientific Information; 米国)

③収録データ 収録期間: 1980年から現在

収録件数: 約2,451,000件
(2001年9月現在)

④主題範囲と情報源

Arts & Humanities Citation Indexに対応する国際的かつ学際的なデータベースである。世界の主要な約1,300誌の芸術と人文科学の雑誌、そして社会科学と自然科学の雑誌を完全に収録するほか、Current Contentsシリーズの出版物のレコードも含む。

1991年1月以降の追加されたレコードについては、著者キーワードと第三者キーワードも付与されている。

対象とする主題分野は、考古学、歴史、哲学、建築学、人文科学、詩歌、芸術、言語と言語学、ラジオ、古典、文学、宗教、舞踏、音楽、テレビ、映画、東洋研究、演劇と、幅広い。

収録対象には、記事、書簡、論説、会議の抄録、訂正記事、詩歌、短編小説、演劇、音楽の譜面、単

行本からの抜粋、年譜、書誌目録と映画目録などの書誌事項、ならびに雑誌に掲載された図書、映画、音楽、演劇の批評の書誌事項が含まれている。

また、特定の創作が記事の主題であるが正式には引用されていない場合に記録される「明示されていない」引用事項も収録する。この引用事項は、絵画、音楽作品、文学作品、映画やレコードのほか、舞踏、音楽や演劇公演についても追加されるとのことである。

⑤レコードの特徴

通常書誌事項(著者名、所属機関名、雑誌名、使用言語、発行年度、ページなど)に加えて下記の項目を収録する。

・主題に関係する項目: タイトル、抄録、索引(ディスクリプタ、アイデンティファイア)、雑誌主題カテゴリー

・その他の特徴的な項目:

引用著者名 (CA=)

引用文献 (CR=)

引用作品 (CW=)

引用年 (CY=)

引用文件数 (NR=)

地域名 (GL=)

④他の電子媒体

CD-ROMおよび磁気テープでも提供されている。

⑦特徴/利用上の注意点

毎週データ追加されており、情報の迅速性は高い。また、このデータベースの特徴は、引用文献に関する種々の項目が検索できることである。そのため、特定の雑誌記事を引用した文献を調査して、その分野の研究についての、後の流れを知ることができる。また、引用回数を調査して、特定分野の重要論文を見出すのに役立つ。

一方、抄録の付与は、2001年の1月以降であり、大半のレコードは書誌事項と引用文献も含めた索引のみであることに留意しての利用が必要である。

3. データベースの比較と考察

① 利用するデータベースの選択

上記で博物館学に関する情報を収録するデータベースの概要を述べ、特徴を考察した。実際にこれらのデータベースを用いて検索し、学術文献を調査す

表 2. 博物館情報を含むデータベースの収録雑誌の比較

データベース	ARTbibliographies Modern(Dialogファイル56)	Bibl. History of Art (Dialogファイル190)	Art Lit. Intl.(RILA) (Dialogファイル191)	Art Abstracts (Dialogファイル435)	Humanities Abs Full Text (Dialogファイル436)	Arts & Humanities Search (Dialogファイル439)
収録年代	1974-	1991-	1975-1989	1984-	1984-	1980-
作成機関	CSA 社(英国)	AHIP/J.Paul Getty Trust and INIST/CNRS(米国)	RILA(米国)	H.W.Wilson 社(米国)	H.W.Wilson 社(米国)	ISI(Institute for Scientific Information; 米国)
JN項目(雑誌名)の件数の多い順	1998-2000年の発行資料を対象	1998-2000年の発行資料を対象	1986-1989年の発行資料を対象	2000年発行の資料を対象	2000年発行の資料を対象	2001年発行資料を対象(但し2001年9月23日時点の収録分)
1	ARTFORUM	BURLINGTON MAGAZINE	COUNTRY LIFE	ART NEWS	THE TIMES LITERARY SUPPLEMENT	THE TIMES LITERARY SUPPLEMENT
2	ARTE	WELTKUNST	ARTS MAGAZINE	ART AM	SIGHT & SOUND	NEW YORK TIMES BOOK REVIEW
3	BEAUX ARTS MAGAZINE	KUNSTFORUM INTERNATIONAL	APOLLO	ART IN AMERICA	THE SIXTEENTH CENTURY JOURNAL	CONNAISSANCE DES ARTS
4	ART. DAS KUNSTMAGAZIN	COUNTRY LIFE (LONDON)	BURLINGTON MAGAZINE	ARCHIT J	ISIS	DOWN BEAT
5	ART MONTHLY	ARTFORUM	MONUMENTS HISTORIQUES DE LA FRANCE	ARCHITECTS' JOURNAL	THE PARIS REVIEW	AMERICAN HISTORICAL REVIEW
6	ART NEXUS	APOLLO (LONDON, 1925)	WELTKUNST	BR J PHOTOGR	PRAIRIE SCHOONER	ARTNEWS
7	KUNSTFORUM INTERNATIONAL	ARTNEWS	ARTFORUM	BRITISH JOURNAL OF PHO	THE FRENCH REVIEW	OEIL-MAGAZINE INTERNATIONAL D ART
8	ART REVIEW	ART (HAMBURG)	ART IN AMERICA	ART & AUCTION	THE AMERICAN POETRY REVIEW	QUINZAIN LITTERAIRE
9	ARTNEWS	ART IN AMERICA (1939)	ART NEWS	ART AUCTION	THE MODERN LANGUAGE REVIEW	OPERA NEWS
10	BRITISH JOURNAL OF PHOTOGRAPHY	MUSEUMS-JOURNAL (BERLIN)	FLASH ART	ARTFORUM INT	J MIL HIST	STRAD
11	ART IN AMERICA	MODERN PAINTERS	ANTIQUAIRE GAZETTE DES BEAUX-ARTS	ARTFORUM INTERNATIONAL	JOURNAL OF MILITARY HISTORY	ART IN AMERICA
12	ART/TEXT	CONNAISSANCE DES ARTS (1980)	ARCHITECTURAL REVIEW	ART NEWSPAPER	POETRY (MODERN POETRY ASSOCIATION)	OPERA
13	WELTKUNST	BULLETIN MONUMENTAL	REVUE DU LOUVRE ET DES MUSEES DE L'UNSERE	SOUTHWEST ART	J ASIAN STUD	POSITIF
14	DESIGN WEEK	ART & ANTIQUES	KUNSTDENKMALER NOS MONUMENTS	L'OEIL	THE JOURNAL OF ASIAN STUDIES	SIGHT AND SOUND
15	MODERN PAINTERS	ARCHIVO ESPANOL DE ARTE	LEONARDO	L'OEIL (LAUSANNE, SWIT)	INTERNATIONAL HISTORY REVIEW	NEW YORK REVIEW OF BOOKS
16	CONNAISSANCE DES ARTS	SCULPTURE (WASHINGTON, DC)	ART BULLETIN	CAHIER DU CINEMA	WORLD LIT TODAY	JOURNAL OF AMERICAN HISTORY
17	NOVUM	BEAUX ARTS MAGAZINE	BILDENDE KUNST	BEAUX ARTS MAG	WORLD LITERATURE TODAY	NOVYI MIR
18	FLASH ART	JOURNAL OF THE SOCIETY OF ARCHITECTURAL	TIMES LITERARY SUPPLEMENT	OPERA NEWS	LIT REV	ARCHITECTURAL RECORD
19	OEIL	NEW ART EXAMINER (1985)	REVIEW DE L'ART	BEAUX ARTS MAGAZINE	THE LITERARY REVIEW (MADISON, N.J.)	ENGLISH HISTORICAL REVIEW
20	CERAMICS MONTHLY	ART PRESS	MAG ANTIQ			CLAVIER

際には、収録年代、タイムラプ（原資料の発行からデータベースに収録されるまでの期間）および調査内容に適した調査項目を備えているかどうか等を基準に選択することになる。たとえば、学位論文を調査したければ、多くのレコードの中から学位論文という記事の種類を特定できる調査項目を備えているデータベースを選ぶべきである。

② データベースの収録雑誌と使用言語の比較

今回取り上げた6種のデータベースについて、レコード中の雑誌名の項目を基に、オンライン統計処理機能を利用して収録件数の多い雑誌名を統計解析した。その解析結果として得られた収録件数の多い雑誌名の上位20を表2に挙げる。ただし、これは機械的統計の結果であって、分析的ではない。また、収録レコードの言語の割合を表3に示す。

Dialogコマンド例：(システムへの接続後)

B 435 ← データベースの選択
 S PY=2000 ← 文献の発行年
 RANK JN ← 収録件数の多い雑誌名順に統計解析

収録対象誌の調査結果から、たとえば、ART IN AMERICA、ARTFORUM、ART NEWSなどは、比較的どのデータベースでも多く収録されており(表2)、博物館学情報を含む美術情報分野で重要な位置を占めていると判断される。論文調査をする上で、あるいは投稿する場合の参考情報として、極めて有用な情報である。

また、表3に示す収録対象国もしくは言語の調査結果から、データベースの収録方針の地域的な特性が確認できる。すなわち、Bibl. History of Art

表3. 原文献の対象国/言語の割合

(2001年9月23日現在)

Bibl. History of Art (Dialogファイル190)		Art Abstracts (Dialog ファイル435)		Humanities Abs Full Text (Dialogファイル436)		Arts&Humanities Search (Dialogファイル439)	
1998-2000年の発行資料を対象		2000年発行の資料を対象		2000年発行の資料を対象		2001年発行資料を対象(但し 2001年9月23日時点の収録分)	
対象国		原文献の言語		原文献の言語		原文献の言語	
英国	23.20%	英語	86.50%	英語	99.50%	英語	76.50%
米国	21.40%	フランス語	8.70%	フランス語	0.30%	フランス語	12.10%
ドイツ	14.30%	ドイツ語	3.70%	スペイン語	0.10%	ドイツ語	6.50%
フランス	14.10%	スペイン語	0.50%	ドイツ語等	0.10%	イタリア語	1.80%
イタリア	9.60%	イタリア語	0.50%	イラン語	0.00%	スペイン語	1.20%
スペイン	4.50%	オランダ語	0.10%	イタリア語等	0.00%	ロシア語	1.10%
オランダ	4.40%	スウェーデン	0.00%	ロマンス諸	0.00%	オランダ語	0.40%
スイス	1.70%			ハンガリア	0.00%	スロバキア	0.20%
デンマーク	1.40%			ポーランド語	0.00%	チェコ語	0.10%
ベルギー	1.20%			スラブ語	0.00%	中国語	0.00%

(Dialogファイル190)はヨーロッパの情報を多く収録しており、また、多彩な言語の文献を対象としていることがうかがえる。これは、文献調査の目的に地域的な条件が重要な意味を持つ場合、データベースを選択する上で注目すべき点である。

ここではそれぞれのデータベース全体での収録雑誌と使用言語を比較の対象としたが、特定分野内での比較や、特定雑誌にどのような分野の記事が多いか、などの解析も考えられる。このように、商用システムの調査・解析機能は、それぞれのデータベースや収録雑誌の特性を把握する上で役立つ手段である。たとえば、関心のある主題分野の情報を多数収録するデータベースを特定し、そのデータベースの中でも利用価値の高い雑誌を特定するなどの作業を短時間で行うことが可能になる。これは、新しい分野に挑戦しようとする際には、情報収集の面で、研究上特に有用である。

③データベース利用の留意点

博物館学の情報収集のツールとして、商用データベースの利用は、短時間で調査結果を得られる、適切なキーワード(検索に用いる用語)を選択することにより、海外情報も手軽に入手できる、という利点がある。また、オンライン解析機能の利用により、自己の関心のある切り口で統計データを入手できるというメリットがある。

反面、データベースにはそれぞれの特性があり、

特にタイムラグ、抄録・全文情報の有無、使用言語などには十分な注意を払う必要がある。データベースの特性に関する知識が不十分であると、調査漏れがあっても気付かない場合がある。印刷物を手めくりしているときには、気付くことでも、データベース検索では、調査の結果得られたものしか目にできない、つまり、実際に検索されたものは判るが「何が得られなかったか(調査漏れになったものは何か)」が判らないということに、常に注意を払うべきである。

また、データベースの作成期間にはそれぞれの方針があり、その方針にはずれた情報は収録されない。そのため、収録・索引方針に注意を払うと共に、一つのデータベースの調査で終わることなく、複数のデータベースを併用した調査が必要である。

4. インターネット情報源

最後に、博物館学あるいは博物館情報を提供するインターネット情報源について、触れておく。

整理された体系的な形で学術論文などを調査するには既存のデータベースが便利であるが、一方、インターネット上で提供されている無料の情報は、特別な手続きはほとんど必要無く手軽に利用でき、特にカレントな情報を入手できる貴重な情報源である。

下記に、関連するインターネットのサイトを幾つ

か挙げる。

- ・島根大学埋蔵文化財調査研究センターの提供する「文化財学・博物館学」インターネット情報源

<http://www.shimaneu.ac.jp/info/maibunn/>

- ・国立民俗学博物館

(<http://www.minpaku.ac.jp/top.html>) の MMIR (Minpaku Multimedia Information Retrieval)

<http://mmir.minpaku.ac.jp/cgi-bin/MMIRmainA>

以下は大学関係で種々の博物館情報を提供するサイト例である。

- ・北海道大学総合博物館

<http://www.museum.hokudai.ac.jp/>

- ・九州大学総合研究博物館の提供する国内の大学博物館リンク集

<http://www.museum.kyushu-u.ac.jp/LINK/linkjapan.html>

下記は博物館の活動なども含めた情報収集に役立つサイトである。

- ・YAHOO!のGeoCitiesで提供されている博物館活動に役立つサイト

<http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Ayame/5427/link.html>

- ・@niftyで提供されている「博物館の図書室」

<http://homepage1.nifty.com/lepos/>

結 論

オンラインで提供されている世界の博物館学関係の学術情報を提供するデータベースの代表例として、ARTbibliographies Modern、Bibliography of the History of Art (BHA)、Art Literature、International (RILA)、Art Abstracts、Wilson Humanities Full Text、Arts & Humanities Searchの6種のデータベースを比較研究した結果を報告した。商用オンラインシステムとしては、Dialogを基準とした。

いずれも、通常の書誌事項(著者名、雑誌名、発行年など)、索引・用語に加えて、データベースそれぞれの索引項目を有する。利用の際には、収録期間、タイムラグ、抄録・全文の収録の有無、データ

ベース作成機関の収録および索引方針、索引項目の違いを把握して利用することが必要である。また、特に全文を収録しているデータベースの検索時には、調査が広くなりすぎて不要レコードまでも検索結果に含まれる等の問題が起こりやすい。利用するオンライン検索システムの機能機能を把握し、柔軟に対処できる検索方法を利用すべきである。一方、インターネットで提供される情報は、体系的な学術調査には不向きであるが、カレントな情報入手に不可欠であり、研究上欠くことのできない手段となっている。

商用システム上でのオンラインデータベースの利用は、有料である反面、迅速に調査結果が得られ、文献の遡及調査には強力な手段となる。また、高度なシステムの機能を利用したオンライン統計解析等、研究上必須のツールとして極めて有用なものがある。従来の、科学技術分野の限られた範囲での利用のみならず、博物館学の分野およびその他の人文・社会分野においても、今後利用のノウハウが蓄積され、活発な有効利用がなされれば、研究上多大なメリットをもたらすものと確信する。

参考文献

1. 通商産業省機械情報産業局 監修(2001)「データベース白書2001」.80-88 財団法人 データベース振興センター
2. 経済産業省編「平成12年度 データベース台帳総覧」財団法人 データベース振興センター
3. 「Dialogコマンド応用セミナーテキスト」(株)ジー・サーチ